

学び直し

2022.9.28

我が国の教育システムを考えるとときに、他国の教育システムと比較することで見えてくることがある。教育システムは各国で大きく異なる。それは社会慣行の中でできてきたものであるため、簡単に他国のまねをすることはできない。

外から見ると、すばらしく見える他国の仕組みでも、中に入ると問題は多々ある。どの国の教育システムにも一長一短がある。決して、万能な仕組みなどないだろう。日本の教育システムを変革していくのであれば、他国のまねではなく、我が国の事情に合わせて、世情が許す範囲において、一番効果的な施策を行う必要がある。

我が国の教育システムを端的に言うならば、万人に平等の機会を与えることが重視されている仕組みだと言える。だが、その結果、問題が起きてしまう。

それは、習熟度の浅い児童生徒までもが、コースアウトせず、他者と同じように進級や進学できてしまうことである。もし、欧米並みの落第制度があれば、初等中等教育のやり直しが随時行われ、そこで追いついたり巻き返しができたりできる。しかし、その結果、社会的偏見が発生するのは間違いない。

それがなされない日本では、大学まで多くの生徒が進学し、そこで初めて習熟不足が大問題となる。結果、一部の大学は、一大学習支援機関となってしまう。最高学府に位置づけられる大学が、補修機関となっているのは問題である。

以前、高校に勤務していたことがある。その学校では「学び直し」を特色として打ち出していた。小学校、中学校と学習を積み上げてきても、基礎学力が十分には身につけていないまま高校に進学してくる生徒がいる。そういった生徒を対象として、社会に出る前に、「学び直し」により世の中で困らないような学力をつけてあげようというものである。

学習というものは、もう一度じっくりやってみると、意外とできるようになるものである。私の勤務していた高校では、生徒が自信をつけて社会に出ていく。中には、大学等に進学する生徒もいる。カリキュラムの中に、国語・数学・英語を中心とした学び直しが組み込まれている効果は大きい。まわりに自分と同じような生徒がいると思えるのも安心感につながる。

できない状態を無視して、さらに高度な教育を行うという状況が、日本の教育体系では見過ごされてきた感がある。それがようやく見直されつつある。高校には、それぞれ特色があり、地域での役割等にも違いがある。中には、学び直しの役割を担った高校があってもいいのではなかろうか。まずは、高校での学び直しが必要ないように、中学校での学習を充実させることが必要である。